

トト口通信

NO. 99

2021年8月号津山・きびの会通信

〒708-0863 津山市小桁 137-2

TEL 0868-23-0085

川島宅 23-3294、090-7591-3294

民生委員の合同研修会に参加した感想

7月15日城西・城下地区の民生委員の合同研修会が行われ、美作保健所からの依頼を受け、津山きびの会からは川島さん、奥村さん、永禮さん、木下の四人が出席しました。



川島さんの発表から始まり、現状では津山きびの会で活動するための資金が十分でないこと、ひきこもり相談窓口の一本化を要望していることを話されました。ひきこもり支援に尽力されていることが伝わったと思います。微力ながら私も少しづつお手伝いできたら嬉しいです。

続いて奥村さんの発表では、ご自身のひきこもりの経験をされた時からリカバリーするまでの体験談をお話しされました。スマートフォンが外に出るきっかけになったことは私と同じ部分があるのでひきこもりを抜け出すために現代では大事なツールとなっているんだなと思いました。社会に出られるようになったのは家族の支えも大きかったので共感できる部分も多かったです。

最後の永禮さんの発表では、ご自身が抱えられている発達障害についてお話しされました。説明と共にわかりやすい例えも交えて話されていたので、イメージしやすく話が伝わってきました。お話を聞いて私もここは似てるな、ここは違うなと思うところがあり、特性は本当に人それぞれだと感じました。

皆さんの発表を聞いて私も自分の過去の経験を話せるようになり、今までの事は無駄ではなかったんだ、生きる糧にもなるんだと思えるようになりたいです。

城下地区の会長さんも、ひきこもり相談窓口の一本化について前向きなご意見をくださいましたので、今後いい方向に進んでいくことを願います。(木下)

「ひきこもり(不登校)支援機関に期待する、 自分らしく個性的にいられる社会」

僕は第二次ベビーブーム世代の始まりに生まれ、就職する頃にバブルが崩壊し、長い間、フリーターとひきこもりを繰り返してきました。今思うと



、「みんなと同じ」と「万遍なく出来る」を家族にも、学校や職場でもずっと求められていたと思います。つまり、僕達の『個性を活かす・伸ばす』環境では殆ど無かったという事です。『自分が自分らしくいられる社会』、ある程度、景気の良い時代なら許されるのかもしれませんが、人の多さがうむ競争と、不況でチャレンジをしない社会の中では、職場でも学校でも個性の豊かさは、求められませんでした。自分らしさが出る杭のように打たれる、そうなった時に、自分を出す事を恐れ、他人との間に心理的な壁を作る事は、世の中の人間みんなが自然と行う事、ひきこもり・不登校とは、恐れが大き過ぎて、心理的から物理的に壁が変化したに過ぎません。「恐れが大き過ぎて」という気持ちこそが、一人一人の個性と考えます。そして「そんなに恐れる事ではない」と強く叱咤する事こそ、その人の個性の尊重では無く、「みんなと同じ」を強要する圧力です。人は他人に認められたり信じられたりしてこそ、初めて自分を認め信じる事が出来る、これが『自信』です。『自信』は人と比較され劣って評価されたら失ってしまいます。『自分が自分らしくいられる』これが許されてこそ、『自信』は育っていきます。ひきこもり・不登校は、自分らしさ(個性)を受入難くなったという、世の中の病です。病気や障がい医学的治療でコントロールするのは異なる、社会の中で生きていく事の難しさへの対応が必要です。その為にも、各自治体にひきこもり・不登校の専門機関は欠かせません。それは、ひきこもり・不登校の当事者だけではなく、国民一人一人に必要な事です。なぜなら誰もが自分らしさ(個性)を出すのをためらい、心の壁を作って生きているという、ひきこもり・不登校予備軍であるという、世の中の病だからです。

ばばちゃん(馬場貴裕)